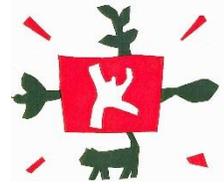


共同通信



2017年12月21日 256号(465号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 154

「一つのエピソードから」

ねっこでお世話になっているともかの母です。この度原稿の依頼をいただき、どのようなことを書けばよいのか随分迷いましたが、一つのエピソードを通して、私が感じたことを書かせていただきたいと思います。

共同幼稚園との出会いは、娘が3歳の時でした。娘は視力が弱く、幼稚園をどうしたものか悩んでいました。そんな時、共同幼稚園のホームページを拝見し、子育て相談をしていただけることが分かりました。早速電話で予約をし、娘と一緒に順子先生とお会いしました。娘のことをお話し、順子先生は、様々なお考えを

聞かせて下さり、私は非常に感銘を受け、深く感動したことを昨日のここのように思い出します。そして、順子先生が、「明日からいらっしゃい。」と言って下さいました。

相談に伺った次の日から、娘と私のプレっぽ生活が始まりました。娘は、今まで目にする事のなかった世界にうれしそうに、園庭のあちこちを動き回っていました。一番のお気に入り、共同名物の砂山です。登ってはすべるを毎日、毎日、繰り返し行っていました。結構高い砂山なので、私ははじめ、落ちるのではないかとハラハラドキドキしながら見

時代にふり回されるのではない	自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた	自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある	自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした	自分の人生を語ってほしい
今日 こんな決意をしたという	自分の人生を語ってほしい

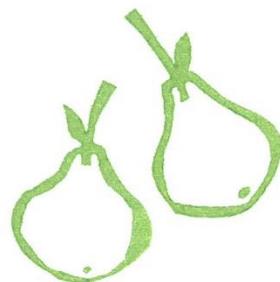
ていました。

そんなある日、プレぼっぼの女の子の一人が、砂山の傍にいた私に、「のぼりたいの。」と声をかけてくれました。私は、「よーし、分かった。」と後ろから女の子を支えながら一緒に登りました。てっぺんまで来た時に、はたと気付いたのです。このまますべってもしものことがあっては大変だと。誰かに受け止めてもらわないかと思いました。どなたか先生をお呼びしようと大声を出そうと思ったその瞬間、年長の男の子が、砂山の下で大きく手を広げて、「ぼくにまかせて！受け止めるから。」と言ってくれたのです。「お願いね。」と言い、女の子の後ろにつきながら一緒にすべり降りました。待ち構えてくれていた男の子が、しっかりと女の子を受け止めてくれました。私は、この男の子の言動にびっくりして、感動しました。幼稚園生でこんな配慮ができるなんて！と。私が感激してお礼を言うと、そんなの当然だよという感じで、男の子は去って行きました。

順子先生がお便りに次のようなことを書かれています。「人は人にいろいろ頼まれたり、頼られたりして力を貸すからこそ、自分の力をためていくことができる、よくそう思ってきましたが、そこに手助けしたい存在があること、このことが自分たちを育てていくのだと思います。」まさに先生がおっしゃる通りのことを幼稚園に正式に入園する前に体験させていただいたのです。

これまでの園生活の中で、娘は心優しいお友達にどれほど助けてもらったことでしょうか。娘だけでなく、私自身も、先生方、お母さん方、様々な方に、色々なさりげないお心遣いをいただいて、ここまでなんとかやってくることができました。この場をお借りして、心からお礼申し上げます。幼稚園にかかわる全ての方に、感謝の気持ちでいっぱいです。共同幼稚園に出合わなければ、娘と私はどうなっていたことかと思う日々です。残り少なくなっている園生活に、一抹の寂しさを感じながらの毎日ですが、最後まで共同ライフを娘と一緒に楽しんでいきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

(桑村 由紀子)



～どろんこと太陽～ 2017 西宮公同幼稚園の子どもたち

いよいよ 2017 年も残りわずか。寒さもより一層厳しくなり、本格的な冬の訪れを感じられる頃となりました。

そんな中、子どもたちそれぞれが、自分のペースで大きくたくましく成長してきたこの 1 年を振り返ると、いろんなことが思い返され、過ごしてきた毎日の豊かさに感謝の気持ちが高まります。

その中でも 12 月はクリスマス一色といってもいいほどに、いろんなクリスマスを過ごしてきました。鈴の音やクリスマスの歌が聞こえ、かわいいガーランドの飾りでにぎやかな園内は、あたたかな笑顔で溢れています。

大切な心の繋がりから、クニさん・ミカちゃんを迎えてのクリスマスコンサートや、卒園した小学生の音楽隊と一緒に過ごした合同クリスマス会も本当に素敵なひとときでした。そして先週には高松公園で、お母さんたちのコーラス隊の歌声が街中に響き渡り、幼稚園のなかだけでは決して経験できない日々を過ごしてきました。

その 1 つに各学年のクリスマス会が行われました。さて、いったいどんなひとときにしようかと先生たち。ぼっぼ・さんぼらった組のクリスマス会では、最近楽しんでいる『ぐりとぐら』の絵本を中心に子どもたちの毎日を振り返りながら進められたら楽しいなあ..。そう思ったきっかけは、先生たちでの絵本の研修会の中

でこの『ぐりとぐら』の絵本についてのお話を聞いたことでした。『ぐりとぐら』は、私が小さい頃から大好きだった物語です。たくさん冒険に出かけるぐりとぐらにわくわくして♪何よりもあの大きな卵からできる黄色のカステラが食べてみたくて、母に何度も何度も読んでもらっていたのを覚えています。だけど今はまた違った視点でこの物語が大好きで。研修会の中でもあったのですが、なんといっても主人公のぐりとぐらが、共同のみんなにとっても似ている！本当にそう思います。今日はどこに出かけようか♪なんてワクワクも、ちょっとこの糸を辿ってみようか♪なんて冒険も、大掃除？じゃあ楽しんでやろうか♪なんて、前向きになんでも楽しむところも...

みんなと過ごす毎日の中でたくさん見えるこんな姿。そしてぐりとぐらが必ず出会う、おいしいものとの出会いもいっぱい溢れていて。そんな共同とぐりとぐらの世界。それが絵本とつながってのみんなの毎日を表せられたら、どんなに楽しいだろう♪そう思いました。作り始めるにあたって、何度も何度も 7 冊のシリーズをよみ返しました。読めば読むほどに、遊び心が満載で楽しくなり、さらにこの絵本のファンに！

そして面白いように、子どもたちの毎日と繋がっていきました。ぐりとぐらが丸い真珠に出会う。共同のみんなは、丸いキャンディーボールで、何度も楽しんできた！と、キャンディキッズを歌って楽しんだり...♪そんな風に物語を作るに

あたり、迷うことなくひらめくことが出来るこの1年の豊かさを改めて振り返り、やっぱり共同っ子は当たり前で過ごしている毎日が、実は宝物なんだよなあ・・・と、感じました。

そして私がもう一つすごい！と思ったのは当日。当日のナレーションは順子先生。他の先生はサイレントで表現していききました。

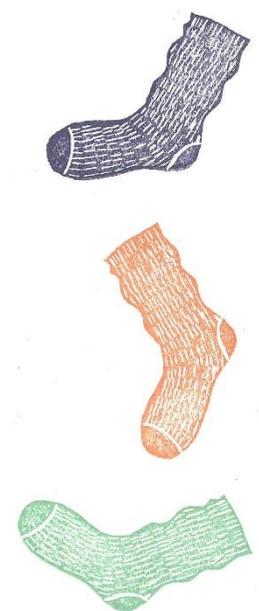
公同名物でしょうか、練習はしない！型にはまったものをただこなすのではなく、その時、その場を楽しんで作っていくことが大切にされた空間。難しさも感じることももちろんあるでしょうが、それ以上に、考えてもみない展開が面白い♪そう思うようになりました。そんな中での当日。順子先生には、ある程度の流れしかお伝えしていないのに、「こう進めてもらえたら嬉しいな〜」「こう言ってもらえたら嬉しいな〜」の、作り手の私の気持ちを、そのまま言葉に、進行にと進めてくださいました。ナレーションを聞きながら「そうなんです！ここがみんなの生活と似ているなと思ったから、選んだ場面なんです！」と何度わくわくしたか。そして、こんな反応をしてくれないかしら〜と思っているところに、「これ、ここ（礼拝堂）の地図じゃない〜？」の声が子どもたちから。もう何から何まで嬉しい！のひとときだったのです。

そんなクリスマス会が終わってから、もう何日も経つのに、ふと耳を澄ませば聞こえてくる「♪ぼくらの名前はぐりとぐら〜」の歌。あの赤と青の帽子をかぶ

った2匹の野ねずみが、今もこれからもみんなの心の中にずっといてくれますように。

2018年も、子どもたちの豊かで冒険にあふれた毎日がずっと続いていきますように。そう願っています。

(近藤 香澄)



あんなこと こんなこと

2017年11月22日(水)

年長さん篠山市後川へ

後川では、澤村さんに育てて貰っている綿畑で綿摘みし、お昼ご飯には、温かい共同鍋をいただきました。



2017年12月3日(日)12時～

津門川川掃除

寒い寒い日でしたが、大勢の方が参加してくださいました。掃除後の軽食には、山形名物の芋煮鍋をみんなでいただきました。



2017年12月8日(金)～10日(日)10時～17時

クリスマス手作りグッズ展

アートガラーヂ

20組もの方々が参加してくださいさり、アクセサリーや、小物雑貨、せっけんや T シャツまで。幅広い商品が所せましと並んでいました。初日は特に多くの方にお買い求めいただき、また売上の3割として約65,000円が被災地・被災者のためにと募金されました。



2017年12月14日(木)17時～18時半ごろ

合同子どもクリスマス会

西宮公会堂チャペルホール

30名の音楽隊の演奏あり、幼稚園の先生たちのパフォーマンスありの笑顔いっぱいのクリスマス会でした。2回ほどの練習だったそうですが、真剣な顔の子どもたちの演奏は、何とも素敵な時間でした。そんな子どもたちを完全バックアップしてくださったのは、ピアニストの城村奈津子さんでした。



2017年12月16日(土)15時～

NISHIKITA のクリスマス ～ボヘミアの森のクリスマス～

高松公園(兵庫県立芸術文化センター前)

今年初めての餅つき!「おいっしょ! おいっしょ!」の掛け声に、つく人、返しの人の気迫がこちらにまで伝わるかつこい餅つき。たくさんのお父さんや、お母さんがお手伝いしてくださり、きれいなツルツル、ピカピカのお餅がつけました。

17時半からは、芸文センターエントランスでのミニコンサートがあり、お母さんたちのコーラスの出演もありました。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

何と早い！12月です。子どもたちの前でいろいろ弾けるわたしに「あんた、よういろんなもの持ってるなあ」、そうこれまで貯めてきた財産、新たに見つけ出すこの目利き、「まあよう見つけてくること」との評価。「わたし子どもを喜ばせるのが仕事だから！」、いや今年1年もよく働きました。子どもの笑顔は可愛い、だんだんと会話できるようになっていくのが面白い。「人間」になっていく。2014年生まれのはるま、2015年4月からおかあさんと一緒に毎日出勤。赤ちゃんだったのに、もうしゃべるしゃべる。からかうのが面白い。さようならと挨拶にきたので「えーっもう帰るの？まだ幼稚園終わってないよ」、すると「あっちのせんせいにバイバイしたからもうかえるの」、おおなるほどね。おしっこの完全自立はまだ、そこでまたからかう。「おしっこ一つ」と指さすと「パンツかえたからだいじょうぶ」、おしっこトイレでしていないだろうという指摘にそれなりの応答。いやあまいますね。おまけに家に帰ると「じゅんこせんせいがおしっこ一つという」と思い出しては困った顔で口にするらしい。

子どもは可愛い、どんな持っていきかたにもノッてくれる、笑顔が眩しい。いや、笑顔はあなたよ、先生の笑顔を見に（話を聞きに）参加したとの絵本の会。そんな笑顔が溢れてこないのが学生との

時間。20歳前後は鬼門だわ。誰か教えてください、ため口との向き合い方を。

思いがけないメールに驚き、元気をもたらした。出会うことって何て素敵なんだろう。

2001年から一緒に仕事をした仲間、幼かった女の子が大きくなって先生になって帰ってきてくれた。そしてまた故郷に戻っていき、その後しばらくして結婚、2人のおかあさんに。保育の道もそのまま、邁進とはいかないけれど悩みながらも共同での学びを大切に懸命に。

最初の報告は、出来合いの夏休みなどの生活表を使っているという園で、共同で作ったそれをこれでもかと並べ、仲間を説得し、そしてまず自分が作るからと率先して作ったという。産前休暇に入った時も自分から作ると言ったそうだ。

そんな彼女からのメール、10月号の共同通信を読み、卒園した子どもが大きくなって実習に来たという話に、自分のことを思い出したということに始まり、あの今も変わらず衰えていない前向き精神での日々について、まず「積み木の勉強会」をしたいと申し出てそれが叶うことになったということ。西宮ではあたりまえのように（あたりまえではなく、そんなふうについて進めてくださっていた）、ネフ社の積み木、絵本の勉強会、菅井先生と自然の中を歩く、岡本夏木先生に浜田壽美男先生との研修会、新沢さんのコンサート、ほかにもケロポンズなどなど、あのころのわたしは幸せだったんだ、あ

のころのわたしに言いたい（笑）と。

また、今の自分に何か感じられることがあるのではないかと 11 月の運動会に来ようとチケットを取ろうとしたことも教えてくれました。

運動会！ぜひ見てほしかったです。毎日がつながってその日に自然にみんなで繰り広げていったあの時間。場所は離れても心が届いている、今も仕事を続けている彼女に見てほしかった、運動会に流れる「ラーニングストーリー」の心を手渡したかったな、残念でした。

12 月に入り、次々と届く喪中欠礼の葉書、今年もこの世界から旅立っていかれた方のことをお知らせいただく葉書に、いのちの時間を思っています。

そんな中にかけて保護者だったひとりのおかあさんからメールが。

11 月末にご母堂を見送られたとのこと、何とか自宅介護という願いをみんなで叶えることができたことなどを書いてくださっていました。そして続けて書かれていた内容には驚きとそして何と表現したらいいのだろうかという思いで涙が溢れて。

2010 年、わたしは父の特別養護老人ホームから病院に移り 1 年余りを過ごした病院で誤嚥性肺炎で見送りました。施設生活 4 年そして入院、ずっと家に帰りがっていた父でした。その葬儀にあたって会葬御礼は任せられたこともあり、それまでも弔電はその人に、そしてその人の周囲の方にできるだけの心を込めて

送る、ということをしてきてきたので、この会葬御礼もハガキ 2 枚分におたる文章となりました。

そのことはそれを目にした彼女の心に残り、「わたし、ずーっとあたためていたものがあるんです。順子先生がおとうさんを見送られた時のご挨拶やそれにまつわる園のおたより。あれを読んだ時自分もこんなふうに親の人となりや自分との思い出、そして周りの方たちへの感謝の気持ちを飾らずまっすぐに伝えたい、そう思われるほど胸に届いたのです」、そして順子ファイルを取り出し、読み直し、自分なりの文章を書かれたとのことでした。

今月のトップの原稿を書いてくださった桑村さん、その中にわたしが書いたという文章を紹介されていました。まあずいぶん格好いいこと、一体どこで書いたのかしら。しかしそれが人と人をつなぐものとなるなら、ことばはやはり素敵です。

生きてきたことその喜びは人との多くのつながり、それを感じられる時、ほんとに感謝の毎日です。

広島にいる後輩が“もみじまんじゅう”をいっぱい送ってくれました。

1981 年、共同に来た時、先に働いていた（若いけど）先輩 2 人。今もプレのクラスでしっかり支えてくれています。

今年も幸せでした。

「こうぞう版行動報告書」

2 ヶ月ほど前から車いすに体幹パッド（布地の L 字型になったもの）をつけています。体が左に傾くため、それを矯正するものです。当初は胸部のベルトで固定させるのを検討されていましたが、息苦しいのでやめになりました。そもそも体幹が弱いこともあって歩いているころでも地べたに座ると左に傾くくせがありました。そして頸髄損傷の後遺症につながっています。

つけての感想ですが、体の傾きが軽減したのと同時に食欲が回復しつつあります。主治医からもコレステロール値が低いといわれていますので、その改善に期待したいです。

（下平 浩三）



日本基督教団西宮公会教会集会案内

早天祈祷会	毎月 1 日 午前 6 時 30 分から	於：西宮公会教会集会室
教会学校	毎週日曜日 午前 9 時から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日 午前 10 時 45 分から	於：西宮公会教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第 1・3 水曜日 午後 7 時から	於：西宮公会教会集会室
読書会	毎週第 2・4 水曜日 午後 7 時から	於：西宮公会教会集会室

（早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016 年 4 月よりしばらくお休みしています。）

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

クリスマスが近づき、子どもたちにとってもワクワクドキドキがたくさん時期になってきました。私が小さい頃にも、毎年 24 日の夜サンタクロースが枕元にプレゼントを置いておいてくれ、25 日の朝にドキドキしながら目を覚ましたことを今でも思い出します。

今自分が親になって、自分の子ども時代の記憶をたどりながら、娘や息子を何とか喜ばそうとしている自分に気がつきます。食事にしても、季節ごとの行事にしても、誕生日会やクリスマスの祝い方にしても、自分がどのような思い出を残し、その思い出に生かされているか、夢をもらってきたかということをつとけながら、自分が楽しかったこと、心に残ったことを、彼らにもしてあげたいという気持ちで色々行動しています。そのような自分の姿を見ながら、自分が経験してきた方法や事柄しか次世代に残していけないのだなあと思うと、今自分が行なっていることがとても大事なことになるかなと思わされています。

私が小さい頃、おそらく小学 3 年生くらいまで、母が毎晩本を読んでくれてい

ました。小さいころはよく色んな絵本を買ってきてくれました。母親自身も絵本が好きだったこともあり、面白い絵の絵本、内容の深い話の絵本、様々でした。中でも「もけらもけら」という絵本を母が購入してきた時には、変わった絵だなあという印象が強くなり、子どもながらに、普段読んでいる物語風の絵本とは全く違ったそのスタイルに驚いたことを今でも思い出します。

私の子どもたちも絵本が大好きなので、早く布団に入った夜はできるだけ絵本を読むようにしています。最近子ども達も大きくなってきたので、絵よりも文章が多い本を読み始めています。先週から読み始めたのはミヒャエル・エンデの「モモ」です。小さいころ、時間泥棒と時間を取り返そうと格闘するもモモの話にどれだけ心打たれたかわかりません。子ども達は絵が無い分少し退屈そうですが、そのお話の展開には興味をもち、読んで欲しいとせがみます。子ども達とゆっくり語り合ったり、散歩したり、本を読んだり、絵を描いたり、そんな貴重な時間をほとんど持つことなく、「宿題」「習い事」「しなければならぬこと」で盛り沢山になり、「早くしなさい！！」が口癖

教会の火曜日 10時から12時 於：西宮共同教会集会室

第1火曜日	わいわいお茶会
第2火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか
第3火曜日	読書会
第4火曜日	社会のこと、世界のこと

になっている毎日に、気づきを与えられたらと自分自身も願いながら絵本を読み進めています。サンタクロースに手紙を書いたり、ホームレスの人に家をプレゼントしたいと本気で話したり、私が何かなくし物をして困っている時には自分の貯金箱のお金を全部使って私にプレゼントをしてくれようとしたり（足りませんが・・・）、そんな子どもたちの優しくて透明な心が、より温まる季節となることを願ってやみません。

(山本 知恵)



名護ぬ七曲(63)

沖縄の文化5 島立て神話

沖縄の歴史はどこから始まるのか？難しいですね。記録が無い部分については地上海底の遺構を丹念に調べたり、中には「ここに絶対昔の人の暮らしの跡があるはず」と信じて、自費を投じて地面を掘り起こした人もいました。港川人の発見に貢献した大山盛保先生もその一人でした。でもスコップも重機も測定器も無い大昔、人々は太古の歴史のをどうやって調べたのでしょうか？▼歴史を知ろうと思った人がその時居たかどうかにもよると思うのですが、少なくとも琉球王府は、王家の正統性に説得力を持たせるためにも、国(島々)の成り立ちをはっきりさせる必要があったと思います。でも地中深くを掘るには当時の技術では限界があります。それに掘り下げていくうちに、ひょっとしたら予定していなかった「思わぬ真実」に辿り着いてしまうかもしれません。なので私が王様だったら最初からそんな面倒なことはしません。地面なんて掘らずに、専門家の人にそれっぽいお話を作ってもらった方が断然早いです。

【首里王府編『中山世鑑』】首里王府で最初に編纂された歴史書は『中山世鑑』(1650年)という書だそうです。やはり神話から始まるそうです。そういう作品を専門的に手掛けるプロの作家さんが居たのでしょね。私はその歴史書を実際に読んだことはないのですが、『ジュニア版琉球・沖縄史』にはその概要としてこのように紹介されています。「天帝の命をうけた阿摩美久という神が

下界におりて島々をつくり、そこに天帝の子なる男女の神を住ませた。二人のあいだから、三男二女が生まれた。長男は国王のはじめとなって天孫と称した。次男は按司のはじめ、三男は百姓のはじめとなり、長女は大君のはじめ、次女はノロのはじめとなった。天孫氏は、25代1万7802年もつづいたが、大昔のことなので姓名は伝わっていない▼王様の系譜をどんどん遡っていくと最終的に神さまに辿り着くというのは、まあよくあるお話だと思います。この神話で天孫王統の絶対性がどこまで担保されたかは分かりませんが、「王様は人民の長男だ(一番偉い)」という意識教育には役立ったかもしれませんね。

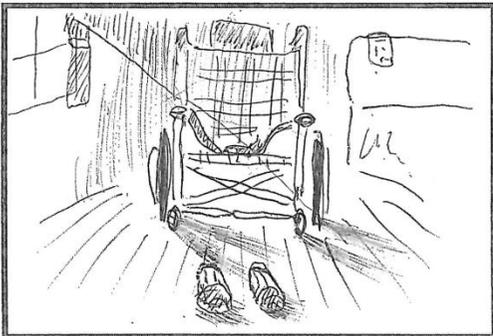
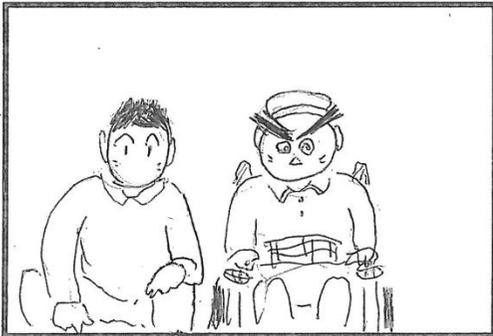
【舜天王統】25代1万7802年続いた(とされる)天孫王統の次に登場するのが舜天王統。1187年から3代にわたり73年間続きます。「琉球史最初の王様」は一応この舜天王とされています。浦添の按司だった尊敦という人が、天孫王統末期の混乱を平定して中山の王様になりまして、それが舜天王となったという話です。舜天の次は舜馬順熙、その次は義本と続きます▼ただこの舜天王、伝えられているその出自が何ともファンキーで、一説には伊豆大島から流れ着いた源為朝と大里按司の妹との間に生まれた子どもだとする伝承さえあります。まあ「お話」ですから面白ければそれはそれで良いのですが、こうした伝承が「日琉同祖論」に利用され、薩摩による琉球侵略を正当化する根拠とされたのは非常に残念な話です▼いずれにしても舜天王もまだまだ神話の域を完全には脱していない沖縄の最初の王

様ということになるかと思います。でももうさすがに12世紀ですからね、全部が全部作り話というわけではありません。

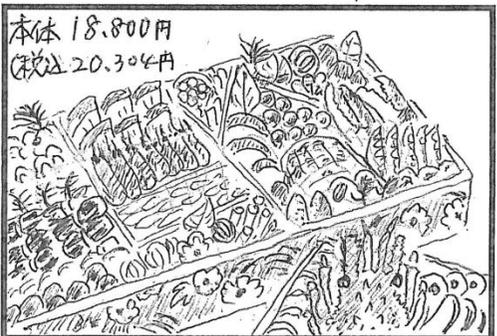
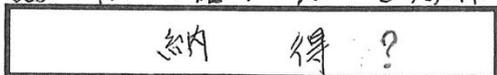
このあと琉球王統は英祖王統→察度王統→第一尚氏王統→第二尚氏王統と、19世紀まで続きます。王制による独立国家ではありませんでしたが、日本や中国、朝鮮、南アジア諸国などと、官民様々なレベルでの交流が勿論あって、次第に沖縄独自の文化が築かれてゆくこととなります▼影響を受けながら変化し形成されてきたものを含めて「独自の文化」と言うのか、それとも影響を受けないでそのまま生きてきた部分だけを本来の「独自の文化」と言うべきなのか、私にはちょっとよく分からないのですが、中には「強いられてそうになった」、というものもたくさんありますし、私はそれをどう受けとめたらよいのか、まだはっきりとした答は自分の中では持っていません。はっきり言えることは、この私も強いた側の一人であるということ。「沖縄の文化」といえど、決して当たり障りのないテーマではないことは確かです。[羽柴]

(羽柴 禎)

晴れのち福ちゃん さちお作



晴れのち福ちゃん さちお作



大地震子ども追悼コンサート

2018年1月17日(水) 午前10時～
高松公園(兵庫県立芸術文化センター前)

うた

西宮公同幼稚園の子どもたち

お母さんコーラス隊

藤川晃史(テノール)

城村奈都子(ピアノ)

主催 2018大地震子ども追悼コンサート実行委員会
協力 被災者生活支援・長田センター、兵庫教区教育部、兵庫県南部大地震ボランティアセンター
西北活性化協議会、西宮公同教会地域共同・共生支援事業
連絡先 西宮市南昭和町10-19、アートガレージ内 電話 0798-67-4691



LALALA にしきたミュージシャンコンテスト
グランプリプレミアムコンサート
2018年2月4日(日) 14:00~
プレラホール (阪急西宮北口駅南 徒歩3分)

2017年10月17日(火)に兵庫県立芸術文化センター中ホールにて行われた「LALALA にしきたミュージシャンコンテスト決戦」にて、グランプリを受賞された Coda del gatto さんのコンサートです。ゲストには、にしきた特別賞受賞者の木下徹さん、審査員特別賞受賞者の Saxophone Quartet Copain さんを迎えて開催します。

入場無料ですが、整理券が必要です。(配布は、12月予定)

主催：西北活性化協議会

(アクタ西宮振興会、にしきた商店街、兵庫県立芸術文化センター、阪急西宮ガーデンズ)

~つとがわ・おれこれ~

子どもを守れ
従順と平穏から
野性と至福とを奪うな
子どもを守れ

子どもを守れ
卑怯と暴力から
始源と鮮烈とを奪うな
子どもを守れ

子どもを守れ
裏切りと絶望から
呼吸と静寂とを奪うな
子どもを守れ

子どもを守れ
扇動と戦争から
孤独と共感とを奪うな
子どもを守れ

子どもを守れ
子どもを守れ
子どもを守れ
子どもを守れ

休みの日にぼっかりと時間が空いたので、久しぶりにカラオケ!! 近所に、シダックスにヨメとカラオケ好きの友だち Mさんと3人で、2時間歌い放題。Mさんが歌っている間に、僕が次の曲を選んでセット。それから、リモコンをヨメに渡す。ヨメはすぐに自分の歌を入力してピッ。そんな具合で、休みなく歌い続けました。もちろん、人が歌っている間は、フライドポテト、ピザ、ポテトチップスなどを飲み物と一緒に流し込む。もちろん、ビール、お酒もあり。そして2時間。電話で、「時間ですよ。」と知らせてくる。大体、25~26曲は歌った勘定。そして、お支払いは、1人580円。結構、面白い時間でした。

(Y)



(K)

子ども連れでもゆっくりとランチができるお店を探して、楽しんでます。子育て支援センターで出会ったお友達は、ほとんどが地元の方ばかり。市内にあるお店にも詳しいので、色々教えてもらっています。先日は、イタリアンのお店に行ってきました。大通りから少し中に入ったところの、昨年できたばかりのオシャレなお店でした。よく通る道なのに、こんなところにあったんだ！！と、まだまだ知らない所がたくさん。新しい発見がいっぱいです。

大きな獅子頭がある公園が近くにあるので、お弁当を持って芝生の上でピクニックもいいね〜と、暖かくなって桜が咲くころを心待ちにしています。

(C)

上の息子が12月に入って車の免許を取りに行き始めました。入学金は、出せ払いでと、私が用意しました。実は、先日「大学に入学したらすぐに取りに行くのかと思ってた」と私が何気なく声をかけたら、バイトで貯めてから行く気やったから。との返事。「じゃあいくらかもう貯まってるの？」との問いには、「いや、全然ない」と。はっ？半年ほど、ファミリーレストランと学習塾の2つも掛け持ちしてバイトしてるというのに、なんで？「だって、定期代や、教科書代も払ってるし…」そういえば、高校生の方のバスの定期代は忘れないように買うようにしていたのですが、大学生の方は、全く忘れていました。高校生には、季節が変われば、少しは服も買ったり、サッカーのシューズを買って替えたり、何かと買い物はしていたのですが、大学生の方は、全く。ちょっと可哀想になったので、「じゃあ、働いてから返して」と提案したら、やっぱりすごく嬉しそうにして、早々に入学手続きをしていました。ギリギリ、セーフだったのか、アウトだったのかは微妙な感じですが、少し反省。でも、「ええねん。自分でするつもりやから。」との応答に、大きくなったんだなあ、遅しく感じました。

(K)



今年2度目のギックリ腰。自分ではそう言い切ってはいなくて、伸びない腰を必死で支えながら幸せなことにわずか1分で行ける40年来お世話になっている接骨院に。「止めました！」、何かというとギックリ腰になるのを寸前で止めたという意味。「これをギックリ腰と言わずに何をギックリ腰というんですか」とは院長、それでもまだ抵抗します。なってしまっただけで押し込んでもらったことあるものね。そうそう、行きは車いすだったのに帰りはルンルンで歩いてというくらいになかなかの腕だったのは先代の院長。そんなことを褒めている場合ではない。昨年11月におおなわを跳んでその後1ヶ月ほど大変だった、で、おおなわはもう跳ばないことにした。今年は6月に。いやこの時大変だったことを今回は寒い季節なのにアイスノンで冷やししながら思い出した。6月は毎月の年長親子の時間、跳ぶの跳ねるのもしないするために、わらべうたカードで半分の時間歌ってことば遊びを楽しんでたのだった。

腰も大変だけれど、もう一つ。3つの場所に出かける講義、月曜と火曜日午後、何をするか、何を準備するか持っていくものを整理する、レジュメを作る、印刷するなどなど。時々新聞記事を読んだり新しい情報に出会ったりして急ぎょ内容を変更したりする。で、次の週へのメモ書きが変わる。前のメモも参考に置いている。9月末から始まった後期、机上に「どんだけ覚え書き作ってんねん」というほどのメモ。実は小心者で前の晩に用意はできているか確認するにとどまらず、一式を車に乗せてからそして行くまでもいろいろの確認。車を走らせながらも突然「！」、着いてから講師室で一連の準備物を並べて確認。サンタクロースの歌の「ホッと一息」じゃあるまいに。そして鬼門に向かうのです。ギックリ腰の弁解ではありませんが。

(J)

カット (A・T)

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

1月12日(金) 岩野祐介先生「内村鑑三(47)」

1月19日(金) 手島勲矢先生「トローラー解釈(13)」

1月26日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む(54)」